

CASBEE京都-新築(2011年版)
(仮称)京都産業大学新追加分寮

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年)

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		評価点	重み係数				評価点	重み係数				
Q 建築物の環境品質											3.0	
Q1 室内環境												2.9
1 音環境							3.8	0.15	3.1	1.00		3.4
1.1 騒音							3.0	0.40	3.0	0.40		
1 室内騒音レベル							3.0	1.00	3.0	1.00		
2 設備騒音対策							-	-	-	-		
1.2 遮音							5.0	0.40	4.3	0.40		
1 開口部遮音性能							5.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能							3.0	-	4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							1.0	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							1.0	-	4.0	0.20		
1.3 吸音							3.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境							2.6	0.35	2.6	1.00		2.6
2.1 室温制御							3.0	0.50	3.0	0.50		
1 室温							3.0	0.60	3.0	0.57		
2 負荷変動・追従制御性							-	-	-	-		
3 外皮性能							3.0	0.40	3.0	0.43		
4 ゾーン別制御性							-	-	-	-		
5 温度・湿度制御							-	-	-	-		
6 個別制御							-	-	-	-		
7 時間外空調に対する配慮							-	-	-	-		
8 監視システム							-	-	-	-		
2.2 湿度制御							1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式							3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境							3.0	0.25	3.3	1.00		3.1
3.1 昼光利用							3.0	0.30	3.0	0.30		
1 昼光率							3.0	0.60	3.0	0.60		
2 方位別開口							-	-	1.0	-		
3 昼光利用設備							3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策							3.0	0.30	4.0	0.30		
1 照明器具のグレア							-	-	-	-		
2 昼光制御							3.0	1.00	4.0	1.00		
3 映り込み対策							-	-	-	-		
3.3 照度							3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御							3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境							3.1	0.25	2.7	1.00		2.9
4.1 発生源対策							3.0	0.50	3.0	0.63		
1 化学汚染物質							3.0	1.00	3.0	1.00		
2 アスベスト対策							-	-	-	-		
3 ダニ・カビ等							-	-	-	-		
4 レジオネラ対策							-	-	-	-		
4.2 換気							2.0	0.30	2.3	0.38		
1 換気量							3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能							-	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮							1.0	0.50	1.0	0.33		
4 給気計画							-	-	-	-		
4.3 運用管理							5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視							1.0	-	-	-		
2 喫煙の制御							5.0	1.00	-	-		
全館禁煙												
Q2 サービス性能							-	0.30	-	-		3.0
1 機能性							3.0	0.40	3.4	1.00		3.2
1.1 機能性・使いやすさ							3.0	0.40	3.0	0.60		
1 広さ・収納性							3.0	-	3.0	0.50		
2 高度情報通信設備対応							3.0	-	3.0	0.50		
3 バリアフリー計画							3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性							3.0	0.30	4.0	0.40		
1 広さ感・景観							3.0	-	5.0	0.50		
2 リフレッシュスペース							3.0	-	-	-		
3 内装計画							3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理							3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計							3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保							3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性							3.0	0.31	-	-		3.0
2.1 耐震・免震							3.0	0.48	-	-		
1 耐震性							3.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能							3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数							3.3	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数							3.0	0.23	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							3.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							3.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							3.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							5.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔							3.0	0.23	-	-		
給水管:SGP-VA,HIVP、排水管:VP,耐火二層管を												

2.4 信頼性	1	空調・換気設備			2.6	0.19	-	-		
	2	給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-		
	3	電気設備			3.0	0.20	-	-		
	4	機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-		
	5	通信・情報設備			1.0	0.20	-	-		
						3.0	0.29	2.4	1.00	2.6
3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり									
	1	階高のゆとり			3.0	-	1.8	0.50		
	2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	3.0	-	3.0	0.60		
	3.2 荷重のゆとり				3.0	-	3.0	0.50		
	3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	-		
	1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.17	-	-		
	2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.17	-	-		
	3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11	-	-		
	4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.11	-	-		
	5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.22	-	-		
	6	バックアップスペース	●大切	A(全国版準用)	3.0	0.22	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	3.4	
1 生物環境の保全と創出					●とも	A'(全国版準用)	3.0	0.30	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮					○	C(独自加点) D(独自基準)	4.0	0.40	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮							3.0	0.30	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上				●とも、 自然	A'(全国版準用)	3.0	0.50	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上				●とも	A(全国版準用)	3.0	0.50	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							-	-	-	3.1
LR1 エネルギー							-	0.40	-	3.2
1 建物の熱負荷抑制							3.0	0.30	-	3.0
2 自然エネルギー利用							4.0	0.20	-	4.0
	2.1 自然エネルギーの直接利用				●自然	A(全国版準用)	4.0	0.50	-	
	2.2 自然エネルギーの変換利用				●自然	A(全国版準用)	4.0	0.50	-	
3 設備システムの高効率化							3.3	0.30	-	3.3
	集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)						3.0			
	集合住宅の評価						4.0			
	ERR=8.4%									
4 効率的運用							3.0	0.20	-	3.0
	4.1 モニタリング						-	-	-	
	4.2 運用管理体制						3.0	1.00	-	
LR2 資源・マテリアル							-	0.30	-	3.0
1 水資源保護							3.0	0.15	-	3.0
	1.1 節水						3.0	0.40	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	
	1 雨水利用システム導入の有無				●自然	A(全国版準用)	3.0	0.67	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.33	-	
2 非再生性資源の使用量削減							3.1	0.63	-	3.1
	2.1 材料使用量の削減				●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	2.0	0.07	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.24	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.20	-	
	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	3.0	0.20	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材				●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	3.0	0.05	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				●大切	A(全国版準用)	4.0	0.24	-	
	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている									
3 汚染物質含有材料の使用回避							2.7	0.22	-	2.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	0.32	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避						2.6	0.68	-	
	1 消火剤						2.0	0.33	-	
	2 発泡剤(断熱材等)						3.0	0.33	-	
	3 冷媒						3.0	0.33	-	
LR3 敷地外環境							-	0.30	-	3.1
1 地球温暖化への配慮							3.2	0.33	-	3.2
2 地域環境への配慮							3.0	0.33	-	3.0
	2.1 大気汚染防止						3.0	0.25	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善				●とも	A(全国版準用)	3.0	0.50	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制						3.0	0.25	-	
	1 雨水排水負荷低減						3.0	0.25	-	
	2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25	-	
	3 交通負荷抑制						3.0	0.25	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制						3.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮							3.1	0.33	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	
	1 騒音						3.0	0.33	-	
	2 振動						3.0	0.33	-	
	3 悪臭						3.0	0.33	-	
	3.2 風害、日照阻害の抑制						3.0	0.40	-	
	1 風害の抑制						3.0	0.70	-	
	2 砂塵の抑制							-	-	
	3 日照阻害の抑制						3.0	0.30	-	
	3.3 光害の抑制						3.7	0.20	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						4.0	0.70	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				●大切	B(推奨内容)	3.0	0.30	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる